

緑の牧場キリスト教会 中長期計画（仮称:レインボー計画）案

2015年2月8日

（委員）片山姉、酒井姉、田中兄、南原姉、
南原兄、吉村姉、吉村兄、酒井牧師

主のみ名を賛美いたします。

このようにして中長期計画案を、愛する兄弟姉妹方と共に話し合う機会があたえられましたことを心から感謝いたします。

私どもは2012年度と2013年度に、「教会のビジョンを語り合う会」をもちました。そこで神さまがお与えくださった緑の牧場キリスト教会のすばらしい特長を確認し合うことができ、神さまとお互いに心から感謝をいたしました。

そればかりではなく、課題についても話し合いました。

7年後に私たちはどうなっていたいのか！？と真剣に語り合いました。

その結果2014年度の総会において、「教会のビジョンを語り合う会」で出された課題を5つに集約し、中長期計画作成委員会を設けることを決め、そこで十分に話し合い、2015年1月の聖徒会で今後の計画案を発表してほしい、と委託をしたのでした。

（2014年度 総会資料 p 20 - 22 を参照）

中長期計画作成委員会は、その使命を果たすべく、2014年6月29日、8月17日、10月4日、11月1日、2015年1月18日、1月31日の計6回、深い話し合いをいたしました。

次頁の表はその話し合いの結果、生まれたものです。

表の説明をさせていただきます：

・いただいた宿題を総合的に考えて、課題を...

- 1．三つの愛と礼拝とセルグループ
- 2．聴く
- 3．居場所
- 4．神学生を生む 新しい牧師を迎える
- 5．ハードと会計

の5項目にまとめました。

・1～5のそれぞれについて...

- A．目標（このように成ろう！）
 - B．目標に行き着くために乗り越えるべき課題
 - C．課題を克服するための鍵となること
- を明確化しました。

・その目標達成までの歩みを、三期7年間で、一步一步、一段一段、ロードマップにしてあらわしました。

どうぞご覧ください。

	目 標 (A)	壁 (B)	解決の鍵 (C)	第一期(2年勝負の年、一丸となって必ず実現する)	第二期 (3年間)	第三期 (2年間)
1 三つの愛と礼拝とセルグループ	1-A1)三つの愛は小さなグループの中でこそ実現され易い 1-A2)セルについて共通の理解をもっている 1-A3)セルを始める兄弟が起こされている 1-A4)セルで元気をもらった人が社会で生き生きしている 1-A5)礼拝とセルがうまく連動している	1-B1)参加することへの躊躇 1-B2)始めることへの不安 1-B3)セルから礼拝参加へ	1-C1)セルキャンペーン(セルの目的・必要性を知る。サポート・セル参加者の体験談・教会のセル宣教計画を知って、不安を解消していただく) 1-C2)セルリーダー会を充実 1-C3)セルの中で、礼拝に参加するように促す(例:礼拝準備の祈り、礼拝聖書箇所を予め読む)。そして心地良さから一歩出て仕える姿勢をもつ	1-1-1)年に1-2回セルキャンペーンを持つ。セルへの参加を積極的に促す。 1-1-2)セルリーダー会を充実させる 1-1-3)セルへの参加を積極的に促す 1-1-4)セルの中で、セル参加者が礼拝に繋がるための要素を入れる 1-1-5)分級礼拝を半年固定して、その中で祈り合い、連絡し合う 1-1-6)「礼拝前の静まる時を持ちましょう(5分前には着席しましょう)」「年40回以上の礼拝出席をしましょう」と時々、週報の祈りの欄に記載する	・第一期に加えて 1-2-1)働いていて日中のセルに参加できない、しかしセルを必要としている人に、いつでも、どんなセルを開きたいのか伺い、三人からでもセルを始める 1-2-2)セル参加者が教会の活動や礼拝に自然に加わるように機会を設定し、巻き込んでゆく 1-2-3)分級礼拝の中で、人のことを祈りお休みされた方に週報を送るようになる 1-2-4)礼拝の出席について反省し、表彰・出席簿などの対応を考える	・第一期と二期に加えて 1-3-1)多様なセルが生まれる 1-3-2)災害やメンバーの召天など、緊急時にセルが機能するように準備する(教会には災害用品を備蓄する)
2 聴く 1神の言を聴く 2互いを聴き合う 3地域から聴く	2-A1)聖書を読むことが、ほとんどの人の日課として習慣化している 2-A2)傾聴の訓練を通して、お互いに深く理解し合っている 2-A3)祈り合う課題が共有できて祈り合っている	2-B1)聖書日課の習慣化が難しい。 2-B2)聖書日課について、励ましを必要とする人もいる。 2-B3)聖書の魅力に気付きにくい。	2-C1)聖書日課50日間キャンペーン(名称 バイブル・ペンテコステ) 2-C2)夜の聖書研究会を復活 2-C3)リトリート(一泊二日) 2-C4)傾聴の学び会(定期的) 2-C5)祈りのニュースレター 2-C6)連盟連合他教会から聴く	2-1-1)春と秋に聖書日課 バイブル・ペンテコステ(分級礼拝リーダーで企画を) 2-1-2)聖書通読の勧め(JBCより記念品貰えます) 2-1-3)夜の聖書研究会を復活させる 2-1-4)傾聴の学び会(一年目前半、第三主日午後:受容・エコー・支持・質問・明確化) 2-1-5)聖書の人物の研究発表会(一年目後半、第三主日午後、6回) / 発表者は分級や祈り会や有志などから複数名を募集 2-1-6)福山教会との関係継続(野外礼拝・交換講壇など)	・第一期に加えて 2-2-1)リトリートを行なう(年1回1泊2日、宿泊施設を借りて聖書を深く読む時、有志参加) 2-2-2)祈りの月刊ニュースを発行する 2-2-3)傾聴を、教会、セル、家庭、カフェで実践 2-2-4)研究発表会(第三主日午後、6回) / 二年目からは、学びのテーマについても話し合っ決めて 2-2-5)出張・伝道隊・礼拝おしかけ隊の派遣	
3 居場所	3-A1)教会堂、家々、借り場所、出張、などいろいろな場所に人々の居場所を作っている 3-A2)教会のメンバーもボランティアも、自らの賜物を発揮して生きがいをもっている 3-A3)三つの愛が具体的に目に見える	3-B1)必要と賜物は多様化しているのでそれを整理して結びつける必要がある 3-B2)教会のミニストリーとしてどのように関わるかという知恵が必要である 3-B3)優先順位を定める必要がある	3-C1)必要と賜物を整理して結びつけるコーディネーターの育成 3-C2)働きを進めてゆくミニストリーチームの育成 3-C3)衛生責任者資格取得者の養成	3-1-1)教会カフェ(共通のイメージを作る、チャリティカフェ実験開始、リサーチ、奉仕者を募る) 3-1-2)衛生責任者資格取得者養成 3-1-3)教会寺小屋(イキイキ後の子どもの受入れ、共通のイメージを作る、宿題+遊び、奉仕者や教員を募る)開始。そして次世代のクリスチャンを育てる 3-1-4)同じ痛みを持った人たちのグループ作り、開始 3-1-5)出張・恩返しプロジェクト、トゥゲザー、の派遣 / フラワーアレンジメント教室・韓国語教室 3-1-6)上1-5について教会内外にボランティアを募る 3-1-7)ミニストリーコーディネーターの研修会を開く(1回)	・第一期に加えて 3-2-1)ミニストリーコーディネーターの育成を始める 3-2-2)専門家の協力を進める(メンタルヘルス・介護・医療など) 3-2-3)セルリーダーとコーディネーターと執事の全体会(情報共有、働きと人の適材適所をはかるため)を開く 3-2-4)シェアハウス(独り暮らしの方々が一件の家の中で助け合い生活を楽しむ)の可能性を探る 3-2-5)親父の会	・第一期、第二期に加えて 3-3-1)集会場所を借りて地域の人たちのための講演会、コンサートを開く 3-3-2)教会員以外の方が自然に集まる仕組みをつくり、教会の活動をPRし、協力を仰ぐ 3-3-3)シェアハウスを始める?
4 神学生を生む 新しい牧師を迎える	4-A1)それぞれが自分の献身について思考している 4-A2)継続的な献身者を生み出している 4-A3)教会の務めについて共通理解ができていて、新しい牧師を迎える準備ができて、実際に迎えている 4-A4)神学生支援(経済的・メール交換などの交わり)	4-B1)教会の務めを、明確にする必要がある 4-B2)牧師を迎える意識の準備	4-C1)神学生たちの証を聴くチャンス 4-C2)神学生たちに奉仕の機会を提供し協働の喜びと経験のチャンスを提供する	4-1-1)チャンスを見つけて神学生たちを招き証を聴く 4-1-2)神学生たちに奉仕の機会を提供し協働の喜びと経験のチャンスを提供する 4-1-3)神学生支援(経済的・メール交換などの交わり)	・第一期に加えて 4-2-1)バプテスト主義について学ぶ、牧師を招く学びをする 4-2-2)牧師招聘委員会を立ち上げる	
5 ハードと 会計	5-A1)会堂の整備をする 5-A2)開拓伝道を志向する			5-1-1)キッチン・ホールの改装の見学と見積り 5-1-2)退職金積立に戻す(1万/月) 5-1-3)改装資金積立(万/月)(連盟からの借入か融資の可能性を探る)	5-2-1)キッチン・ホール改装 5-2-2)外装の一部南側のペンキ塗り 5-2-3)セルや隣教会との交わりから...開拓伝道について計画し始める	*今回の計画を反映する新しいパネルを作ります。その時に「2015-16年の間に、人生のダイヤモンド2 聖を目指しましょう!」と促すシールを貼ります。

4人の証風ストーリー

この後には、4人の証風ストーリーが書かれています。
何年か後の「緑の牧場キリスト教会の姿」をイメージすることによって、中長期計画（仮称:レインボー計画）が理解しやすくなるように、そして話し合いが深くできるように、という願いから書かれたものです。

これからは、社会全体が傷つき、人々はますます孤立し、価値と心の拠り所を失い、苦しみは増加してゆく傾向にあると言われていています。さらに地震などの大災害のゆえに共同体が破壊する可能性もあります。

けれどもどのような状況の中にあっても、人に生きる力を与えるのは『神の愛』です。私たちが緑の牧場キリスト教会は、『神さまのご愛を受けて三つの愛を大切にすることを通して、各自の成長を促します。』

私たちはご利益があるから教会に繋がるのではなく、苦しみの中にも神さまが共にいてくださることを知っているので、人々と共に神様の愛を分かち合うために聖書に基づく夢を持ち、その実現のために精一杯努力をいたします。

もちろん、人のもつ夢や人が立てた計画は誤りを含み、訂正する必要があることでしょう。神さまのみ心だけが成ることを私たちは知っています。でもだからこそ、私たちはみ心を成される神様という堅固な土台の上で、安心して祈り、必死に語り合い、大胆に歩いてゆくことができるし、そのようにしてゆきたいと願っています。

どうぞ、4人のストーリーをわくわくしながら読んでください。そして時々、表を見ながら将来の教会について思いを巡らせてください。すばらしい将来を築くために、自らの人生を三つの愛で満たすために、「今、そしてこれから、私は何ができるだろうか？」と考えていただきたいと思います。



2023年5月27日（土）

私は、定道夫（さだめみちお）と申します。

現在、IT企業に勤めています。

グローバル世界と言われて久しいですが、

日本も他の国々もかつての帝国主義時代のように、

他国に対して熾烈な利益争いを繰り広げています。

特に私の関わっているIT企業は生き残りが厳しく、私自身は能力の限界を感じながらも、夜遅くまで仕事をして、土日はただ飲んで寝るだけの生活をしておりました。

医者にも、アル中寸前と忠告されたこともありました。

当時、家族もバラバラで、私は何のために生きているのか、と考える元気さえも失い、ほとほと疲れ切っていた状態でした。

朝、目を覚ますと、ただ会社を辞めたいという思いにとらわれ、新聞を見ると求職欄を真っ先に見ていたのです。

それでも誰かに相談するすべもありませんでした。

会社では、各々がついたてに囲まれてコンピューターの前に座り、隣の同僚ともeメールで連絡を取り合うという状況です。

いったい、あと何日耐えることができるのか...と思いながら過ごしていて、もう私は心も体も家庭も限界にきておりました。

セルへの参加

そんな私が今では毎日、生きる気力に満ちています。

それはちょうど2年前のこと。久しぶりに学生時代の友人と出会ったことが始まりでした。

その友人は私の話をじっくり聞いてくれると、「ビジネスマンが集まっている朝食会があるので参加しないか？」と誘ってくれました。

その集まりの名前は「ビジネスマンセル」といって、土曜日の朝、教会のホールでいっしょに簡単な食事を作り、その後1時間ほどを過ごす会だという説明でした。

後から分かったことなのですが、ビジネスマンセルの起こりは、二人のビジネスマンが「忙しい俺たちこそセルが必要だ」と牧師に相談し、空き時間を見つけて月に二度、会社帰りに一時間のセルを始めたことと聞きました。それが発展して、今のかたちになったのです。

初めて参加した時には、とても緊張し、警戒もしました。

友人が信頼できる人物でなかったなら、きっと誘いを断っていたに違いありません。

なんていったって教会に集まるのだから、そこに集まった人たちから、さんざん勧めを受け、強制されて、嫌な思いをするに違いないと想像していたのです。

しかし、事実はそれとは全く違っていました。

押し付けられることは何もなく、ただ私の話を聞いてくれました。

聞いてくれた時、自分の心の奥底にしまっておいた悲しみや痛みが噴き出して来て、こぼれる涙を抑えることができませんでした。



何回かビジネスマンセルに通いながら、心の中が穏やかになっていくのがわかりました。生きるのは辛い、とこぼしていたのに、それからは生きる目的を探すようになっていきました。そして、友人から「マイルーツ」という信仰入門クラスを学びました。初めて「神の愛と救い」について知ることができました。そして人生の目的は、神の愛と救いを受けて、三つの愛に生きることである、とも知りました。これは私にとっては天地がひっくり返るほどの驚きだったのです。なぜなら、今までは、自分の力を周りの者たちに見せつけて、自分を認めさせ、自分の身分と価値を守ることこそ人生の目的である、と思い続けてきたからです。自分中心に生きてきて、自分のことしか考えず、その結果、枯れた井戸のようになって行き詰っていたという自分の本当の姿を知らされました。

イエスキリストを通して与えられる神の愛を知った時、「今まで、本当の意味で、他人を尊重し、愛してきたことがあったらどうか？」と反省させられました。マイルーツを学んでいる途中、私はイエス様を救い主と信じ、生き方を変えることを決心して神様に助けを祈りました。そしてまず反省を生かそうと思い、妻に対しては今までのことを詫び、心からの感謝を伝えました。子どもたちに対しても、威圧的な態度を改めて、子どものために毎日祈り、子どもの話を聴くことに努めるようにしました。少し努力が要ったけれども、今では、妻も子どももいっしょに礼拝に集うようになっています。

セルキャンペーン

教会では年に二回、「セルキャンペーン」というものがあります。これは、教会のみなさんがセルグループについて共通の理解とビジョンを持つことができ、安心してセルに参加できるようになること、そして新しいセルが誕生することを願って開かれています。キャンペーンの時期には礼拝の中で、セルについての目的・必要性・サポート体制・教会全体のセル宣教計画などが紹介され、これを機にセルに参加したいという人が出るばかりではなく、自分も地域や家庭や会社などでセルを開きたいという人も誕生しています。

イエス様を信じた後、私は、会社の同僚のために祈り始めていました。同僚たちの中にはきっと、かつての私のように、生きることを辛く感じて苦しんでいる者たちがいるにちがいないと思ったからです。そこで始めたのは、車の後ろのウィンドーに教会のステッカーを貼ることでした。これは、羊を抱きかかえているイエス様の姿とその背後に緑の牧場が広がっているかわいいステッカーです。祈りが聴かれたのでしょうか！？...そのステッカーを貼ってから一週間ほど経った頃、一人の同僚が私に話しかけてきました。彼は、「定(さだめ)さんは、クリスチャンですか？」と聞くのです。

「何で？」と尋ねると、「ステッカーを見たから。私も昔、教会に通っていたことがあって。もしかしたら定さんはクリスチャンかな？と思ったんです。」と答えました。

打ち解け合って話をし、その同僚と私は二人でセルを始めることになりました。

今は月に二度、昼食の時に、会社の食堂の隅で会い、お互いの近況を聞いて祈り合っています。その時間は非常に短い時間だけれども、ストレスに負けない新鮮な力を受ける貴重な時となっています。

そして土曜日の朝はいっしょに、ビジネスマンセルに集い、日曜日には共に心を合わせて礼拝に参加しています。

また、セルの仲間から、「親父バンドをつくらないか？」と勧められて、彼はドラム、私はギターで楽しんでいます。

妻も娘もそれぞれに、キーボードとバイオリンを弾いているので、家でも合奏を楽しみ、今度のクリスマスには我が家からも出し物をしたいと練習をしています。

主の日の礼拝に向けて

セルに参加するようになったのとほぼ同時期に、毎日曜日の礼拝にも参加するようになりました。

初めて礼拝に行った時は少しばかり緊張しましたが、友人がいっしょにいてくれると思うと出席する勇気が出たのです。

そして礼拝にも驚かされました。神に造られ、愛され、命を与えられた者たちが、神に心からの感謝をささげ祈っている...その姿を見ると、神聖なものに触れて、人間の尊厳を感じさせられました。

また礼拝の中で歓迎されて、握手を交わす時には、魂の故郷に帰ってきたのだと思えて心が震えました。

土曜日のビジネスマンセルの中で7分ディポジションという時間があります。

その時は、次の礼拝の聖書箇所をあらかじめ読むことになっています。

そこで準備した上で、次の日の礼拝に参加するのです。

神さまが牧師を通して、同じ聖書箇所からどのようなメッセージをくださるのか、毎週の礼拝が楽しみです。

また、年に数回～他のセルもその務めを負っているのですが～ビジネスマンセルのメンバーが礼拝の奉仕を担当することになっています。

担当の日には、受付も、アッシャーも、司会も、奏楽（親父バンドがそれを受け持つ）も、献金係も、私たちビジネスマンセルのメンバーがすることになるので、奉仕の心が鍛えられています。

セルは、受けるだけの場所ではなく、仕えてゆく生き方を鍛えるところでもあるのです。

主の日の礼拝。主が私たちの礼拝を待っておられる。今週のビジネスマンセルにおいても、礼拝のために祈りを合わせました。

父なる神に心から、感謝！

神さまに栄光がありますように！

中長期計画ストーリー 「聴く」 偕喜久代(ともにきくよ)姉の場合

2023年4月16日(日)

私は、偕喜久代(ともにきくよ)と申します。
今、30代後半で、子どもが一人います。
今日は、「聴く」ということでお証をさせていただきたいと思います。
最近、私は、自分の名前をととても誇りに思っています。
なぜなら、ちょうど、今日お証したい内容と同じなのですから。



私は3年前から、緑の牧場キリスト教会に来るようになりました。
中学と高校がミッション系でしたので、教会に来ることにあまり抵抗はありませんでした。
教会の雰囲気がとても良くて、私もこの中に加えてほしい、とすぐに思いました。
ですから、この教会に来て、少しすると「マイルーツ」を受けてすぐにクリスチャンになった
のです。
その時も、そして今も、教会では「聴く」ということに力を入れています。
面白いですね～教会だから、「伝えよ!」「語れ!」と強調されるように思っていたのですが、
「聴く」ということに力を入れているというのは…。

ちなみに申しますと、教会で言われる「聴く」というのは、漢字では、耳偏がある「聴く」の
方です。
「聴く」という漢字は、耳・十字架・目・心、からできているでしょ。だから、主を見上げなが
ら、十字架の愛と救いの下で心を傾けて聴きましょうね。そして、相手が気付かずにいても
やもやしているものを、ご自分ではっきりとすることができるように、その人と共にいて、
その人をそのまま受け入れることによって、その人が課題を乗り越える勇気と信仰を得るこ
とができるように務めましょうね。」と勧められています。

教会では、「三つの聴く」を大切にしています。
一つ目は、神の言を聴く。
二つ目は、お互いを聴き合う。
三つ目は、地域から聴く。です。

私は、クリスチャンになった後、聖書を読み始めたのですが、なかなか長続きしませんでした。
仕事も忙しい時がありますし、子育ても大変ですから…。
でもそんな折、「バイブル・ペンテコステ」がありました。
これは年に二回、春と秋に教会で行なわれているキャンペーンです。
バイブルは聖書。ペンテコステは50日という意味だそうです。
聖書日課の短いコースでも一日一章のコースでもいいので、とにかく50日間聖書を読み続け
ましょう、というものでした。

バプテスマを受けてから、聖書を読むことが三日坊主で気になっていましたので、このキャンペーンを機に「とにかく50日間続けよう」と決心したのです。

50日間つまり約7週間、人はある事を続けるとそれが習慣になるのだそうです。

時にはくたくたに疲れていて眠たくて「聖書を読むのが辛い！」と断念しそうになった時もありましたがついに7週間、やり遂げました。

私の属している分級礼拝の兄弟姉妹たちも、礼拝毎に励まし合ってくれて、みんなでやり遂げることができたことも感謝です。

その時は、分級礼拝の仲間たち全員が満面笑顔になり、やり遂げてよかったなあとしみじみ思ったのでした。

バイブル・ペンテコステの期間を過ごしていたある時のことですが、私はわからないと思っていた聖書の言葉が「わかる！」と思えた瞬間がありました。

その時に、目から鱗が落ちたような気がしたのです。

聖書の言葉が心に響くとはこういうことか、と思い、涙が溢れました。

イエス様が「聴く耳のある者は聴きなさい」と言われたのはそういうことなののでしょうか？

聖書の面白さが分かったので、私は年に数回は、夜の聖書研究祈り会に参加するようになりました。

本当は毎回、参加したいのですが、仕事もあり、子育てもありますので、主人が子どもを見てくれる時に、一生懸命頼んで参加することにしています。

聖書研究祈り会では、いろいろな聖書の訳を読み比べながら聖書の言に耳を傾けます。

また、参加者の語られる言葉を聴きながら、神さまのみ心を求めます。

そして、教会の兄弟姉妹方や、教会にいられていない方々のためにも祈りを合わせます。

イエス様がここにいてくださる、としみじみと思えて幸せを感じることができる、私にとっては年に数回の大切な時間です。

そして昨年のことですが、私はついに「リトリート」に参加することができました。

これは、定員が10名と限られていたのですが、参加者で郊外の宿泊施設に行きました。

一泊二日、食事もついていて、ただ聖書を深く読むという集まりです。

賛美して聖書を読んで、その後は一人一人に分かれて静かに祈りながら聖書の言葉にじっくり聴いてゆくのです。

その時、私は、これまでのこと、親や主人や出会ったいろいろな人や同僚のことを思い出して心から感謝することができました。

それまでは不満や後悔があったのに、それを全部、感謝して受け入れることができるという不思議な体験でした。

いつかは、主人や子どもも参加できるように、というのが私の祈りです。

さて二つ目の聴く...お互いに聴き合うということですが、これは学びと実践が伴っているものです。

「傾聴の学び会」と呼ばれていて、年度の前半、月に一度、礼拝後にもたれます。内容は、傾聴・受容・エコー・支持・明確化など、どれも大切な学びで、なぜ今まで知らなかったのだろうか、と思えるような貴重な事ばかりです。その時だけではなく傾聴の学びが、分級礼拝、セル、家庭、教会カフェなど、いろいろな所で役立っているように思います。そのためか、教会のいろいろな場面で、神さまの深い慰めが満ち溢れて、温かい雰囲気の中で天からの力を受けているように思えます。ちなみに傾聴の学び会が行なわれていた時間は、年度の後半は、「聖書の人物の研究発表」が行なわれています。教会の兄弟姉妹方が、一生懸命調べてきた聖書の人物についての研究を発表してくださるのですが、新しい気づきを与えられ、聖書の人物が身近に感じられるばかりではなく、そこから励まされることも多く、毎月その会を心待ちにしています。

さて三つ目の...地域から聴く、ということについてですが今、緑の牧場は、教会員だけではなく、地域の方たちの大切な場所になりつつあります。カフェに集っていたり、子どもたちが来ていたり、フラワーアレンジメントや韓国語教室や合唱、地域を良くしようとする方々の集まりや学生たちのボランティアなど。また、教会の行なう講演会や演奏会を通して、人々が出入りしています。そんな中から教えられて、いろいろな祈りの課題が礼拝の中で祈られ、そして実現しています。

最初は、「聴く」ということの重要性がわかりませんでした。でも、今はよくわかります。聴くということの中に、命の流れが起こされているのです。聴き合うことの中に、イエス様のご臨在を感じるのです。緑の牧場に集えて本当に良かった！と思っています。神さまに感謝して証を終わります。



中長期計画ストーリー 「居場所」 吉羽るい(よしばるい) 姉の場合

2027年2月28日(日)

私は「吉羽(よしば)るい」と申します。
75歳になります。3年前に夫を天に送りました。
子どもたちはそれぞれに結婚し、家庭を持って幸せであります。
そして現在、一人暮らしをしております。



昔から比べると、科学はずいぶん進みました。

今や、全部、機械です。

2年前には、役所から人が来られて、ぼけ防止のためにとって小さなお人形さんのようなロボットを支給されました。

「おばあちゃん。毎日、ロボットと会話をするように。」と言われたのですよ。

伺うと、毎日のロボットとの会話の量がインターネットで役所に繋がっていて、私が生きていくかどうか確認されるようになっているそうです。いやですね。

科学は進みましたが、だいたい心が置き去りにされているに思うのですがいかがでしょうか。

体はおかげさまで健康です。

病院にも年に数回は行きますが、少しばかり血圧が高いというだけで治療を受けるほどのことはないそうです。

ただその頃は、ロボットと話をするだけで、ふさがちになり、家から出ることも少なくなっていました。

時には、お友達もいろいろと誘ってはくださるのですが、その時は楽しいと思っても、一人になると何か虚しさを感じていたのです。

教会カフェ

けれども私はこの一年で、ずいぶん変わったのですよ。

なぜなら、楽しみを見つけたからです。

居場所があるんです。

それは、一つは教会でしているカフェです。

そこにはいろいろな人たちが出入りしていて、とても落ち着くんです。

私のような高齢なご婦人たちも生き生きしてカフェを手伝っておられるんですよ。

教会の台所は10数年前に改装されたそうで、私のような高齢の方でも使い易くなっています、とても便利になっております。

私は、なぜその方たちが生き生きしているか、その秘訣も知りました。

それはセルグループというものでした。

いろいろなセルグループがあるらしいのですが、その中でも私が知っているのは、「同じ悩みを抱えた人たちのセルグループ」というものがいくつかあるそうです。

外国人のセルグループ、学校に行けない子どもたちと生きる親のセルグループなどあるそうで

すよ。

そのなかの一つで、私と同じように、夫に先立たれ、何となく虚しさを感じている人のグループがありまして、今は私はそのメンバーなのです。

セルグループに参加する人たちは、週に一度集まり、日曜日には礼拝に集っておられます。そのセルグループがとても楽しいのですよ。

教会のカフェ、そしてセルグループ、教会の礼拝、どれもが私の活力の源に成っているんです。

同じ痛みを持った人たちのグループ

先日、一人暮らししていた女性たちが、一軒の家を借りていっしょに共同生活している（＊）というので、そこにも連れて行ってもらいました。

5人のご婦人たちが共同生活をしておられました。

それぞれが一部屋ずつ、プライベートな部屋をもっておられます。

みんなが集まる居間があって、毎朝6時になると、祈り会を持つためにそれぞれが部屋から出て集ってきます。

今は寒いので、コタツの周りに座って真中にはおいしそうなみかんが籠の中に置いてあります。聖書を読んで、まあ賑やかな話があって、その後は教会の方たちのことを祈り合っておられました。

朝の聖書とお祈りの時間の後はみんなで朝食を取り、日中はそれぞれにボランティアに行ったり、散歩に行ったり、図書館に行ったり、教会カフェで手伝ったりして、夜はまた夕食の準備に集まり、賑やかに話をしています。

一日の終わりには、感謝のお祈りをし合っていました。

また年に数回、いっしょに旅行にも行ったりするそうです。

教会の青年が買い物のために寄ってくれたり、お医者さんや看護婦さんも訪ねてくれます。

生活費はみんなで考え合っていますし、何かあった時には助け合うこともできるので、とても楽しいご様子。

私は、今は自宅で生活しておりますが、近い将来には、その共同ハウスで生活したいなぁと思って、子どもたちに相談しているところです。

みんなの居場所

教会はみんなの居場所になっております。

お友達が私に言うには、教会というのは建物のことばかりではないとのこと。

時には教会員のお宅がセルのメンバーの集まる居場所にもなりますし、教会で時々借りる地域の集会所も居場所になりますし、少し考えを広げると恩返しプロジェクトやトゥゲザーの派遣も居場所と言えるのではないかと考えているのでございます。

また緑の牧場は、教会員だけではなく、地域の方たちの大切な場所であることも、うれしいと思っているのですよ。

学校が終わった後に子どもたちが家に帰っても誰もいないので心配している、という親御さんたちの声を聞いて、数年前から教会では「教会寺小屋」をしております。

今では子どもたちが集っております。

大学生のボランティアや、定年を迎えられたすてきなご主人方が、子どもたちの勉強を見てあげたり、いっしょに遊んだりしています。

それぞれの生きがい、やりがいになっているご様子。

そんな中で子どもたちは心豊かに育ってゆくのだろうとしみじみ思うのです。

人々の必要、賜物、そしてコーディネーター

教会には、教会員だけではなく、いろいろな方々が出入りしておられます。

みんな、生きがいや繋がりを求めておられるのですね。

人には、それぞれに得手・不得手がございます。

特殊な技術をもった方もおられますし、辛い経験をされたご婦人方もおられます。

適材適所といえますか、各々が様々な務めとうまく結び付けられていて、みなさんが生き生きしておられるのは良いですね。

その秘訣も知りました。

教会には、その結びつけるための働きをする人がおられて、その人が、いろいろな必要と、それぞれが持っている賜物とを知って、上手にくっつけておられるのだそうです。

教会では、その方のことを「ミニストリー・コーディネーター」と呼んでいます。

また、奉仕してくださっている方の心のサポートや問題が起こった時に知恵や力をかしてくれる奉仕者たちもいて、ミニストリーチームというんだそうですよ。

出張居場所

前からあった「恩返しプロジェクト」は教会や地域の人々のために独特な活動をされていて驚かされます。お見舞いにいたり、地域の掃除をしたり、地域にお花を咲かせましょう活動をしたり...若い人は何をやるのやと、驚かされたり、笑いながら、私もそれに加えてもらっております。

またフラワーアレンジメント教室、韓国語教室は、いろいろな場所で行なわれていまして、ご婦人方の居場所になっており、楽しみにしております。

それらの会を通して、教会に来たいと言われる方もおられるので、不思議な神さまのお導きですね。

また最近では、出張伝道隊とか、礼拝おしかけ隊とか、面白い名前をつけて、他の教会の応援に行く中高生や青年や壮年や女性の方たちがいて、連合の教会からは喜ばれておるそうです。

長くお話させていただきましたが...このままロボットを相手に、独りで寂しく人生を終えて行くのかしら、と思っていた二年前には考えられなかった、楽しい生活しております。

神さま、そして緑の牧場に感謝を申し上げます。

どうも長々と失礼をいたしました。

(*) シルバーの方々の共同生活については、まだまだ調べてみなければならないことが多いです。その是非からごいっしょに考えて行きましょう。

中長期計画 story

新しい牧師を迎える 神学生を生き育てる 傳献（でんささく）兄の場合

2025年11月16日（日）



私は傳献（でんささく）と言います。

現在、20歳です。

両親が共稼ぎでしたので、私は小さい時に、
緑の牧場の「教会寺小屋」に通っていました。

数人位いましたが、ボランティアの大学生が宿題を教えてくださいましたし、リタイアされた壮年の方々も優しく勉強を教えてくださいました。

やがて大学生になり、教育学部に入ったので、今度は自分がボランティアとして水曜日の夕方に教会寺小屋に来て、子どもたちの宿題を見たり、いっしょに遊んだりしています。

その時の私の楽しみは、ただ子どもたちと過ごすことばかりではありません。

そこでいっしょにいてくれる教会のおじちゃんたちです。

人生の先輩方に、それこそ教えられ学ぶことが多いのです。

家で父親と話す時には緊張するのですが、ここにおられる人生の先輩方は何か違うものをもっているはずと感じていました。

そのおじちゃんたちに導かれて、マイルーツを受け、そしてクリスチャンになることが出来ました。

クリスチャンになった後は、クリスチャン生活のために「マイツリー」をしますよね。

それが私にとっては一つの転機になりました。

感情のこと、心の傷のこと、自分の考え方の癖について、自分の賜物、傾聴とコーチング、それらをマイツリーの中で学ぶ内に、将来について真剣に考えるようになったのです。

そして、できれば人と関わる仕事をしたい、教会の働きに全力を尽くしていきたいと思うようになりました。

もちろん、緑の牧場キリスト教会のメンバーは、それぞれが献身されています。

神学校に行って牧師になることだけが献身と呼ぶのではない、と思います。

イエス様の弟子である教会のメンバーの一人一人は、本当に素晴らしい献身者であり、そのままキリストのお体です！

そんな愛し尊敬する兄弟姉妹方と今まで一緒に過ごせて育てられてきたからこそ、私は教会で働きたいなあ、牧師になりたいなあ、と思うようになりました。

ですから私が牧師になりたいなあと願うようになったのは、みなさんの献身の現れの一つであると思い感謝しています。

この教会から神学校に行き、牧師になった先生方もおられます。
北海道札幌市の石橋先生。寒い所におられるのに、熱い先生です。
世界では地球温暖化に対してますます警戒感を強めています、石橋先生が地球温暖化の原因
ではないかと私はひそかに思っています。
また 市の信先生。この先生も熱い先生です。若い人たちのセルが活発で、 大学をはじ
めとしているいろいろな大学にセルを始めて、 市から日本を変える！と息巻いています。

2014年あたりから神学生が時々、緑の牧場に来るようになって、今に続いていると伺いま
した。
その中で昨年来られた全主一（すべてしゅいち）神学生との出会いは、私にとって大きな祝福
だったと思います。
神学校での学びや生活、神学の深み、誠実な主一神学生の姿、また今の日本の状況や教会の様
子を伺って、力不足ではありますが、私も教会で働きたいと心から祈ったのでした。

2015年から始まった緑の牧場中長期計画（通称、第一回レインボー計画）第二期の201
7年から、聖徒会（信徒会）の初めの時間5～10分間で、「バプテスト主義と協働の教会
／牧師を迎えるために」というタイトルで連続として学び会が開かれたそうです。

その後、新しく赴任された先生のもとで、さらに教会の働きが整理されていく中、開拓伝道の
ビジョンが明確化してきました。
そこで行なわれていたセルや隣の福山教会・呉教会・広島教会との交わりを通して、今は近く
の市で開拓伝道のための準備が始まっています。
既に、いくつかのセルがあり、主の日に礼拝することができる集会所も見つかりました。

私は来年、神学校に入学します。
みなさんの祈りを頂き、また支援を頂き、メールや手紙を通して交流を続けますが、どうぞま
すます私のことをおぼえてください。
そして、いろいろな献身のあり方がありますが、共に主を見上げて、神の国が人々を支え・守
り・導いてくださいますように、力を尽くしてまいりましょう。
どうぞよろしく願いいたします。
感謝いたします。

以上です。
読んでいただいてありがとうございました。
感謝！